

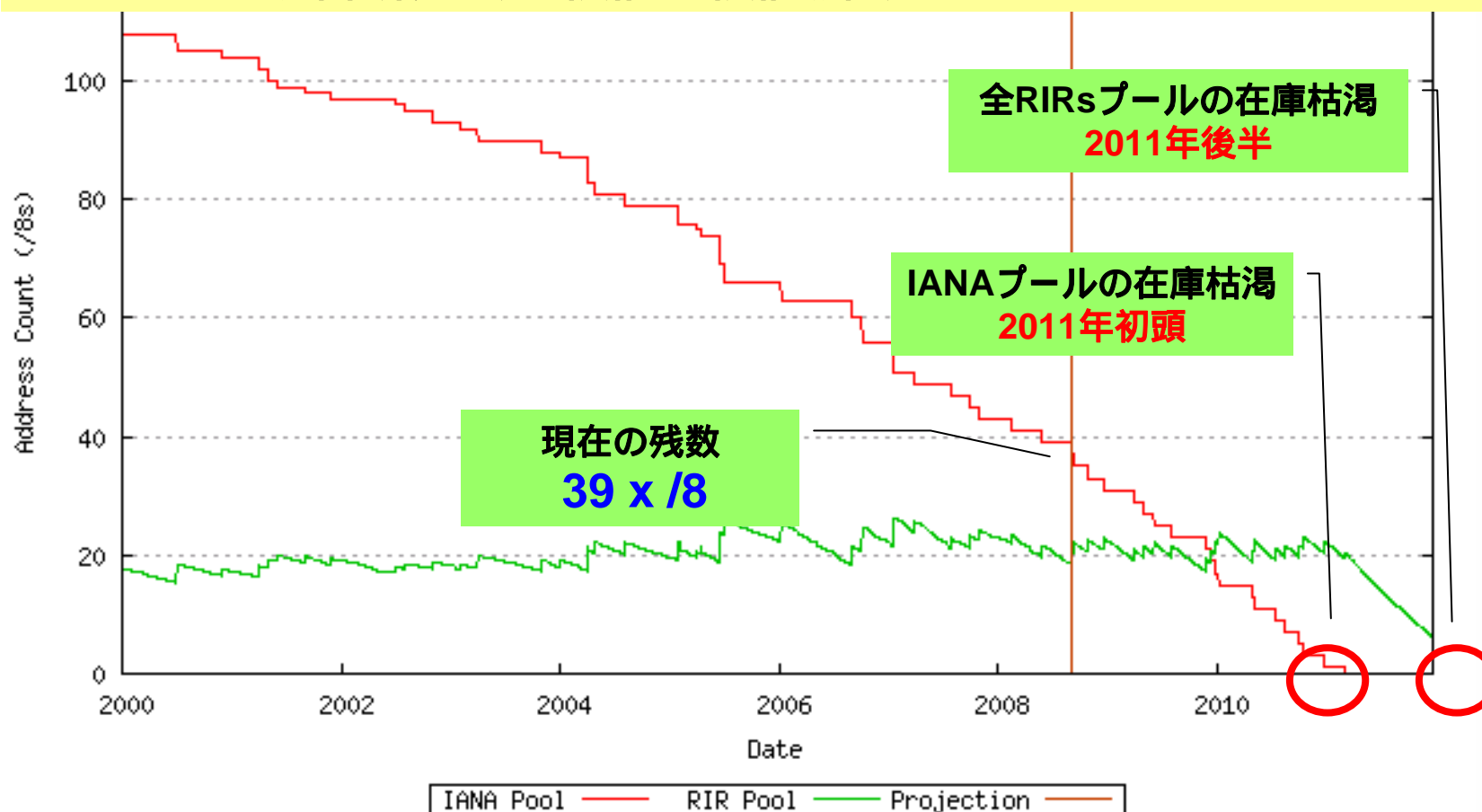
IPv4アドレス在庫枯渇の現状

IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース結成式
2008年 9月5日

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

未分配IPv4アドレス空間の在庫枯渇： 2010—2011年

- APNICのチーフサイエンティスト Geoff Hustonによる予測
- JPNICと総務省研究会の検討で検証済み



分配済み空間の再活用は効果少ない

- 「中古IPv4アドレス」の供給は、現在の需要ペースを賄うには全く程遠い
 - 黎明期の割り当て(いわゆる旧classAアドレス) /8ブロック40個あまりは、いずれも部分的に利用されており、返却などによる再活用には、利用アドレス空間の整理・付け替えが必要。
 - /8ブロック数個の返却しか見込めない
 - JPNIC管理下の黎明期割り当ての自主的返却要請に対して、わずか2%の空間が返却されたに留まった
- アドレス空間の移転制度（移転禁止ルールの解除）
 - 金銭による譲渡を可能にし、流動性確保へ期待がもたれるものの、現行の管理ルールの根本的変革を含み、実現は未だ不透明。

まとめ:IPアドレス管理の観点から

- 本当になくなるのですか？
 - はい。未分配IPv4アドレスの在庫は2010年から2011年までになくなることが確実で、IPアドレス管理組織からの需要に応じた分配は不可能になる見込みです。
- 使いまわしできないんですか？
 - 使いまわすIPv4アドレスはわずかしか出てきそうにありません。
 - 金銭譲渡を可能とする移転制度の成立も不透明で、現時点で再活用推進策として期待することは危険です。
- 新たなIPv4アドレスの確保なしに、インターネットの継続的発展を維持するための対応策が、各ステークホルダーにおいて必要となります。

IPv4アドレス在庫枯渇の現状

IPv4アドレス在庫枯渇タスクフォース結成式

2008年9月5日

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)

JPNIC - 社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター

◆組織概要

- 「インターネットの円滑な運用のために各種の活動を通じてその基盤を支え、豊かで安定したインターネット社会の実現を目指す」ことを活動理念とする公益法人であり、この観点から、IPアドレスの管理分配・方針策定を行うほか、インターネット基盤整備のための新技術研究、国際調整、普及啓発など、インターネット社会を根底から支える役目を担っている。

◆組織としての活動趣旨

- 2007年度は、IPv4アドレス在庫枯渇問題の分析、課題整理と旨とした検討を行い、「IPv4アドレス在庫枯渇問題に関する検討報告書(第一次)」にまとめた。2008年度の活動趣旨は以下の2領域に分けられる。
- [ステークホルダーにおける在庫枯渇対応の促進]
 - ユーザ以外のステークホルダーにおける在庫枯渇に対する対応計画を、2008年度末までに策定(着手)済とするべく、本連携活動を主軸に取り組む。
 - 連携活動内では進捗管理・広報啓発と進捗管理を分担するとともに、モデルケース検討など中小事業者に対する計画支援を行う
- [IPアドレス管理政策上の対応]
 - 国別インターネットレジストリとして、IPアドレス管理政策上で必要となる対応を行う。具体的には、アドレス移転や回収再分配などに関するIPアドレスポリシーの検討と調整や、グローバルな議論への対応、状況把握、国内への周知を行う。

◆担当分野

- | | |
|------|---|
| 技術検討 | 中小事業者における具体的な対応モデルケースを作成し、提供する |
| 広報啓発 | 連携活動全体としての情報提供のプラットフォームの検討、構築によって、各業界団体チャンネルを通じた働きかけでリーチできない領域への浸透を確実にする |
| 進捗管理 | IPv6協議会と合同で、各事業者における対応進捗の把握点検を行う。また、進捗推進策として、各団体による働きかけのためのツール整備、働きかけの達成度可視化のための仕組みの整備を行う |